

待するもの」と題しそれぞれ特別講演があつた。

(4) 次回第5回高炉内反応部会は7月12日開催予定。ここで再度、高炉解体調査について討議を行う。

特殊製錬部会

第12回部会特殊精錬第5分科会

開催日：3月31日。出席者：小林主査，ほか15名。

1. 研究発表

- 1.1 「エレクトロ・スラグ溶解におけるスラグ-メタル反応におよぼす溶解諸条件の影響」
CaO-SiO₂-CaF₂ 3元系フラックスおよびFe-Mn系電極線を用い溶解条件をかえて，各要因の影響を調査した
- 1.2 「エレクトロ・スラグ溶解過程における物理的現象」
側面，底面からの流出熱量の測定可能な溶解装置を用い，溶解過程における溶解条件因子と溶解

安定性，電極の熔融現象およびスラグ浴内の状況との関連性を示した。

2. その他

部会最終報告書の第5分科会担当分の題名，記述様式を決めた。

応力腐食割れ部会

第14回部会 開催日：4月21日。出席者：春山副部長ほか17名。

研究発表

1. 「ステンレス鋼のSCCき裂における塑性域観察およびき裂内部溶液の物質移動を推定する試み」
三沢（室蘭工大）
2. 「オーステナイト・ステンレス鋼の粒内応力腐食割れ機構について」
阿部（新日鉄）
3. 「低温度の濃厚MgCl₂溶液中の304鋼におけるSCCき裂の発生」
辻川（東大）

日本学術会議第75回総会報告

交通ストで延期されていた第75回総会は，5月16日～18日までの3日間，日本学術会議講堂で開かれた。この総会の主目的は，今期の活動計画案を審議し，各種委員会等の構成を行うことであつた。

総会第1日目にまず，沖縄からオブザーバーとして参加された琉球大学山里栄昭，田港朝昭両教授が紹介された。次いで会長から前総会以後の経過報告が次の5項目について行われた：1) 前会長からの引継事項，2) 国内主要事項，3) 国際学術交流，4) 要望・声明等，5) その他。続いて科学技術会議関係報告及び日本学術振興会小委員会報告が行われた。

次に名取副会長から，財務委員会報告として，昭和53年度国際会議代表派遣旅費及び委員等旅費の配分について報告があつた。また，岡倉副会長から広報委員会報告があり，その中で学術会議の広報活動を強化する一環として報道機関説教委員等との懇談会を開いたことが述べられた。次いで勧告小委員会報告，UNCSTD小委員会報告が行われた。

引き続き部会報告に移り，各部長から新設研連に対する部会意見等についての補足説明があつた。また研究費，国際学術交流及び資源・エネルギー問題の各臨時委員会報告があつた。

午後の議事は第11期活動計画委員会報告から始められた。会長の概括説明の後，要綱，課題及び研連各分科会について各委員長から補足説明があつた。法規分科会では本総会への提案に代えて，諸問題に関する分科会の見解を報告書として提出したが，これについて三宅義夫委員長から詳細な説明があつた。この報告書については，今後改革検討小委員会等が引き継ぎ，これに基づく方策等を検討することを確認した。

続いて「活動要綱」の審議に入つた。池田末利・要綱分科会委員長から前文，活動の基本姿勢，重点目標，及び審議・運営の基本的態度の4項目について要点の説明があつた後質疑に入つた。種々の観点から会員の意見が述べられたが，審議・運営の基本的態度に論議が集中した。今期における勧告等のあり方，政府及び国会との対応について原案に盛られた考え方が質された。活発な討論の後，会長から原案の文言のうち必要箇所は運営審議会で修正する条件で採決に入りたいとの提案があり，採決の結果賛成多数で「活動要綱」が採択され第1日目の議事を終えた。

総会第2日目の議事は「課題及び各種委員会」の審議から始められた。渡辺洋三・課題分科会委員長から課題と要綱との対応並びに各種委員会の運営及び任務・構成に関する特記事項の説明があり，質疑に入つた。本提案は具体的な活動内容を示しているだけに，多面的な論議が行われた。特記事項に関しては，1) 委員会の審議を期中に完結しようとする今期の基本方針とそれを受けた委員会運営に関する表現，及び2) 今期新設された資料担当委員の任務と性格について論議が集中した。特に2) については修正案が提案され，賛否ほぼ同数となつたが，これについて提案者が別途原案を修正し，了承された。ここで一旦常置委員会関係を部分採決し，賛成多数を得て午前の審議を終えた。

午後の審議では特別委員会関係に入つたが，特に研究公務員特例法の取扱いについて2～3の会員から意見開陳があつた。この問題は前期に集中審議を行い，また，関係者の要請も強いが，問題を前進させる現実的な方途は多々あり，慎重に対処すべきだとの趣旨であつた。ここで特別委員会関係を部分採決し，賛成多数を得た。次いで運営審議会付置小委員会の審議に入り，部分採決して賛成多数を得た後，本提案全体について採決を行いほぼ満場一致で可決された。

続いて「研連の組織・運営」の審議に入った。今道友則・研連分科会委員長から詳細な説明があり、質疑応答の後採決に入り、賛成多数で本提案を採択し、総会2日目の議事を終えた。

午後3時から各部会が開かれ、各種委員会の選出が行われた。

第3日目には、午前10時から午後3時にかけて各常置委員会、特別委員会等の初会合が行われ、委員長・幹事の選出並びに活動方針の審議が行われた。

午後3時から総会が開かれ、前日審議された諸提案の一部文書修正の結果が報告された。

また、次の総会を10月25日(水)～27日(金)の3日間とすることを決めた。最後に、沖縄県在住の科学者を代表して田港朝昭氏から本総会への招へいに対する謝辞と今後の協力要請をこめた挨拶があり、総会を終了した。

なお、今総会の出席率は第1日目～第3日目まで、それぞれ87.6%、90.5%、81.4%であった。

(日本学術会議広報委員会)

秋季大会宿泊のご案内

標記大会期間中の宿泊について下記の通り富山市旅館事業協同組合で宿泊の斡旋をすることになりましたので、ご希望者はお申込み下さい。なお大会の開催される頃は観光シーズンのためお早目にお申込み頂き、出来得れば備考欄に第2希望の宿泊クラスをお書き添え願います。

宿泊料金クラス (1) 日本旅館(1泊2食、税・サービス料込、相部屋)

A 4,500円 B 5,500円 C 7,500円

(2) ビジネスホテル(食事なし、バス付、税・サービス料込)

D 4,000～5,000円(シングル)

E 7,000円 (ツイン2人で)

(3) ホテル(食事なし、バス付、税・サービス料込)

F 5,200円(シングル)

G 7,400円(ツイン2人で)

申込み方法: 下記申込書式例により宿泊予納金1人1泊につき3000円を添え現金書留にて、お申込み下さい。

・グループで同一旅館・ホテルに宿泊をご希望される場合は、その旨を備考欄にご記入下さい。

・申込書到着後宿泊券をお送りしますから、当日必ずご持参下さい。宿泊料金との差額については旅館ホテルにてご精算下さい。

申込み締切: 9月14日(木) なお、お申込み後の取消、変更は9月22日(金)までにご連絡あるものについては宿泊予納金を返金いたしますが、それ以後は返金いたしかねますのでご了承下さい。

申込み先: 〒930 富山市丸の内1丁目3番10号(協栄生命富山ビル2F)

富山市旅館事業協同組合 Tel. 0764 (41) 4797

日本鉄鋼協会・日本金属学会・秋季大会宿泊係

(申込書式例)

日本鉄鋼協会・日本金属学会秋季大会宿泊申込書

氏 名	連絡先〒					TEL	
(宿泊券送付先)	勤務先					TEL	
ふりがな(氏名)	希望クラス	宿 泊 月 日					(宿泊予納金)
		10/2	10/3	10/4	10/5	10/6	
	A B C D						3000円× 泊× 名
	E F G						=送金合計 円
富山駅到着予定時刻		月	日	時	分頃	列車名	号
備考(第2希望クラス望その他)							